

2013年6月8日 静岡県富士市
第35回東大OLK大会前日イベント

東京近郊から富士へ

東大OLK大会の前日イベントは、一昨年が『東京大学本郷キャンパス』、昨年在『城北中央公園』と、東京近郊での開催が続いていた。

今年も従来通り都心開催の予定であったが、第一候補であった『東京大学駒場キャンパス』は、工事のために使用に制限があることが分かった。そのため、東京近郊の公園と『富士山こどもの国』での開催が可能かどうか模索したところ、静岡県オリエンテリング協会の協力のもと、『富士山こどもの国』での開催が実現した。

準備の遅れが、情報公開の遅れにつながってしまい、参加者の方々にはご迷惑をお掛けすることとなった。一度は東京近郊での開催と発表したため、遠方からの参加者の中には、既に公共交通機関を予約していた方もおられたので。

次に競技面の話に移りたいと思う。試走前のコースは、以前『富士山こどもの国』で行われた世界選手権・ジュニア世界選手権のセレクションのコースに近いものだった。

しかし斬新さを求めて、コースプランナーを中心に、試走時に修正を加えた。その結果、会場周りを前半に通過するコースとなり、より盛り上がるものになったと思う。

レースは、Longで長縄知晃(静岡OLC)が、唯一20分を切る19分59秒で1位だった(運営者の真保が19分07秒で走っているが、参考記録)。2位谷川友太、3位結城克哉(東大OLK32期)と、世界選手権の代表組が上位を占め、その実力の高さを見せつけた。

Middleは申し込み人数が少なく、岩手大学勢が上位を占めた。



雄大な富士の裾野にて

前日大会の今後

東大OLK大会は、大学三年生が運営の主体となり、その前日大会は、四年生が主体となって運営することが慣例となっている。四年生という時期は、研究や就職活動が本格化し、以前よりも忙しくなる人が多いため、どうしても三年生時とはモチベーションに差が出てしまう。そのためもあり、皆で運営することをモットーとする本大会と違い、前日大会は一部の人の手によることが多い。

昨年は『城北中央公園』という新規トレインを開発したが、地図作成に携われる人員の確保が難しく、中心となった調査者にかかる負担は重かった。その教訓からも、今年は地図調査を行わず、既存の地図を使用する開催となった。

新規トレイン・リメイクマップではないため、参加者にとって前日大会があまり魅力のないものに映るのではないかと不安であったが、結局70人超の参加者を集めることが出来た。ただ、昨年と一昨年は100人を優に超えていたため、都心開催でないことを割り引いても、評価出来るか微妙なところだろう。

本大会が、リメイク又は新規トレインでのロング競技であることは、当然変わるようには思えない。ただ、前日大会は、毎年の方針が固定化されているわけではない。今後の前日大会開催においても、新しく地図調査をすべきか、既存の地図を使うべきか、そしてそもそも開催出来るのかどうか、本大会との兼ね合いで判断する必要がある。決して本大会が疎かになることなく、それでいて一定の質を保証すること、それが前日大会に求められるものであろう。

(石野夏幹)



フィニッシュするLong 優勝の長縄知晃

結果

Long - 3.4km ↑135m

- 1 長縄知晃 0:19:59 静岡 OLC
- 2 谷川友太 0:20:22
- 3 結城克哉 0:20:25 東大OLK32期

Middle - 2.5km ↑95m

- 1 高橋美誉 0:22:20 岩手大学 OLC
- 2 松田沙也 0:31:20 岩手大学 OLC
- 3 小野 萌 0:34:43 岩手大学 OLC